博 士 論 文 要 旨

地域における薬局に関連した
多職種連携に関する研究

伊野陽子

近年、日本では少子高齢化が進んでおり、住み慣れた地域で医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が推進されている。2015 年に厚生労働省により公表された「患者のための薬局ビジョン」において、かかりつけ薬局が持つべき機能の一つとして、「医療機関等との連携強化」が挙げられており、地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域住民に良質な医療を提供するために、多職種連携を実践することが求められている。そこで本研究は、地域における多職種連携の現状を明らかにし、影響する要因を明らかにすること、多職種連携を推進するための大学での教育カリキュラムの評価を行うことを目的に行った。

1. 病院および診療所における薬局との連携に関する研究

岐阜市の病院および診療所を対象にアンケート調査を実施した。病院および診療所どちらにおいても、現在では薬局との連携をほとんど行っていないこと、診療所に比べ、病院の方が薬局との連携を積極的に実施しようと考えていることが見出された。入院機能を有し、医師以外の医療スタッフがいること、薬剤師との接点が多い医療機関ほど連携に対して前向きな姿勢であることを明らかにした。

2. 診療所における薬局との連携に関する要因解析

岐阜市の診療所を対象にアンケート調査を実施した。訪問診療・往診を行っている、あるいは院外処方のみを行っている診療所の方が、薬局との連携の実施や今後の考え

に対し前向きであることが見出された。薬局薬剤師と接する機会が多い診療所ほど、連携に対して前向きな姿勢であることを明らかにした。

3.　薬局における医療施設・介護施設等との連携に関する研究

岐阜市の薬局を対象にアンケート調査を実施した。薬局において他施設との連携として実施されていない項目が多かったが、今後は積極的に他施設との連携を実施しようと考えていることが見出された。薬剤師数が 1 人よりも 2 人以上の薬局において連携に対して前向きな姿勢であることを明らかにした。

4.　薬局における医療施設・介護施設等との連携に関する要因解析

岐阜市の薬局を対象にアンケート調査を実施した。医療施設・介護施設等との連携の実施および今後の考えに対する要因として、「かかりつけ薬剤師指導料」の算定、他施設と連携し対応を行った利用者がいることが見出された。かかりつけ薬剤師による薬学的関与が多職種連携を推進するための要因となることを明らかにした。

5.　薬学生に対する多職種連携医療実習の効果に関する研究

岐阜薬科大学において実務実習事前学習の一環として多職種連携実習を行った。多職種連携医療実習は、薬学部におけるチーム医療に関する Specific Behavioral Objectives の自己評価、社会的スキル、多職種連携教育に対する学習準備性・志向性、多職種連携教育に対する認識を向上させることが見出された。在学中に多職種連携実習を経験することは有意義であることを明らかにした。

以上、本研究において地域における多職種連携の現状を明らかにし、多職種連携推進のための必要な知見の集積を行った。薬剤師による薬学的介入の実践の関与が、多職種連携の推進に寄与すること、大学において多職種連携医療実習を行うことにより他の職種を理解し、学習準備性を向上させることができることを明らかにした。これら一連の調査は、多職種連携の推進に貢献することができた。

論文審査結果の要旨

氏名（本籍）	伊野　陽子　　（　神奈川県　）
学位の種類	博士（薬学）
学位記番号	乙　第　３９３　号
学位授与年月日	令和２年３月１０日
学位授与の条件	学位規則第４条第２項該当者
学位論文の題名	地域における薬局に関連した多職種連携に関する研究
論文審査委員	（主査）　永澤　秀子
	（副査）　原　　英彰
	（副査）　林　　秀樹

伊野陽子氏は、博士研究において、岐阜市の薬局に関連した多職種連携に関するアンケート調査を実施し、病院及び診療所と薬局の連携の現状と、医師及び薬剤師それぞれの意識について調査・分析を行った。その結果、合同研修会の開催以外の連携取り組みはいずれも低調であり、特に診療所と薬局の連携はほとんど行われていないことが明らかになった。また、今後その有用性が高まると期待される在宅・訪問診療への薬剤師の同行を行っている医療機関は非常に少なく、将来実施を考えている機関も２－３割に満たなかった。これに対して、薬局側は、処方箋集中率の高さにかかわらず、半数以上が今後の連携強化を希望し、６割が在宅・訪問診療を実施したいと考えているなど積極的であり、双方の意識に温度差があることを明らかにした。以上により、多職種連携の推進には、かかりつけ薬剤師のより積極的な薬学的介入が重要であることを示唆した。また、多職種連携医療実習によって薬学生の連携に対する認識とスキルが有意に向上することを明らかにした。このように、本論文は来たるべき高齢化社会に向けて、地域の多職種連携を推進するための課題と、今後薬剤師が果たすべき役割を明らかにし、地域医療の向上に資する有用な知見を与えたことから、博士（薬学）論文として価値あるものと認める。